

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年2月16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000104		
法人名	株式会社 プラティア		
事業所名	グループホームプラティアひょうたん山		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	東大阪市新池島町1-1-5		
自己評価作成日	平成24年2月16日	評価結果市町村受理日	平成24年10月22日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp/
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8号-102
訪問調査日	平成24年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営方針である①ご入居様が主人公 ②尊厳を保つ ③いきいきとした生活 ④認知症の進行を防止 ⑤地域社会と共に を柱としたケアに重点を置き、柔軟かつ繊細な対応に努めている。職員は入浴などのケアに関しては利用者が希望される時に対応できるように心がけ、認知症や接遇などの勉強会を実施し尊厳を持って接している。また近隣の店舗、ご近所の畑を活用させていただく事で、閉塞感の無い生活に役立っている。地域との交流の取り組みを重視し、自治会行事への参加、他デイサービスとの交流を行っている。人員は人員基準以上の人数で個別ケアに対応できる体制を取っていて、利用者中心の生活環境を提供できるように利用者本位のケアを実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

川沿いに面した静かな住宅地にある施設は、理念・運営方針に基づいたサービス提供の下、開設1年が経過し、管理者・職員努力により安定した運営がなされている。定期的に開催している運営推進会議で自治会長から地域で開催される行事の情報提供を受け、地域で開催される100円喫茶への参加や、フリーマーケットや幼稚園の行事に出向いて交流を持つこともできるようになり、地域の方と顔馴染みの関係が構築できている。また、月に1回実施される地域の清掃活動には、職員と参加し、地域での役割を担うように取り組んでいる。室内は木彫の落ち着いた雰囲気があり、ゆったりとくつろげる空間が提供されている。利用者の自立度が高く、自らの思いや意向、希望にできる限り添えるように取り組んでいる。また、自ら思いや意向、希望が言い表せない利用者でも普段の関わりの中での表情や行動、家族からの情報で利用者の立場に立ち、思いや意向・希望を考えるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	詰所に基本理念を掲示し、常に意識する事を心がけている。またスタッフ会議でも唱和している。	毎月実施している会議では、基本理念を唱和し理念に立ち戻る機会を持っている。また、理念を各フロアに掲示し、常に目に触れ確認することにより浸透を図っている。理念は重要事項説明書に明記し、利用者・家族に契約時に説明を行い浸透を図っている。	今後も、理念に立ち戻りケアを振り返る機会を持ち、理念を活かしたケアの提供を行い理念を実現する取り組みが望ましい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新池島町自治会の行事に参加させていただいている。(春祭り、夏祭り、100円喫茶など)	運営推進会議で自治会長から地域で開催される行事の情報提供を受け、利用者の状態に合わせて参加し交流が持てるように支援している。3カ月に1回程度地域で開催される100円喫茶への参加を継続しており、地域の方と顔馴染みの関係が構築できている。フリーマーケットや幼稚園の行事に出向いて、交流を持つこともできるようになっている。月に1回実施される地域の清掃活動には、職員が勤務に合わせて参加し、地域での役割を担うように取り組んでいる。開設後、地域へ出向いての交流や運営推進会議への地域の方の参加により地域の理解は深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターを軸とした市内7ブロックの地域会議に出席し地域の関連事業者との連携を図っている。更に民生委員や町内会長との交流にも努めている。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の中にグループホームがあるということを念頭において、地域の方、地域包括の方と積極的に意見交換を行っています。</p>	<p>自治会長、地域包括支援センター職員、家族代表者の参加のもと2カ月に1回開催している。会議では、「新池島ダイジェスト」の地域行事の回覧を自治会長が持参し、地域行事への参加が活発に行えるようになっている。自治会の特別会員にも加入している。地域包括支援センターからは、地域で開催される勉強会の案内などの情報提供がある。会議の内容は、地域包括支援センターから市に報告されている。</p>	<p>事業所の活動状況や利用者の状況などを会議の中で継続的に報告することで事業所の状態の理解を促し、参加メンバーから意見や提案を聴取し、運営やサービスなどに活かしていく取り組みが望まれる。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市が主催する勉強会、連絡会には積極的に参加している。</p>	<p>地域包括支援センターの職員が運営推進会議に出席し、地域包括支援センターから市への報告により市が事業所の状況を把握している。市の開催する勉強会や連絡会に出席し、市との連携を図るように取り組んでいる。日常的には、メールで連絡を取り合っている。</p>	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>離棟を防ぐ為に、玄関非常口の鍵を閉めさせていただいています。身体拘束のケースは無いですが、勉強をして、スタッフの知識の構築には努めています。</p>	<p>全体会議の中で行われる研修・勉強会の機会の中で拘束についても学ぶ機会を持ち、拘束についての知識を深め理解と浸透を図っている。利用者の安全性を確保するため短時間の施錠を行うことはあるが、職員の見守り強化で安全性の確保ができる状態であれば解錠し、閉塞感を持たせないように取り組んでいる。利用者の状態を把握し、全職員で検討を重ね抑圧感のない暮らしの支援を行うようにしている。</p>	<p>年間の研修計画を作成し、全職員が積極的に知識を深めていく継続的な取り組みが望ましい。</p>
7		<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部の虐待に対する研修に参加し、スタッフに伝達しています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>市などが主催する勉強会には参加し、制度の把握に努めている。現在、成年後見制度を利用されている方が2名いる。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明時間を取り、重要事項説明書、利用契約書で理解した上で入所していただいている。</p>		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>普段より利用者の行動、発言からニーズの把握に努めている。家族へは電話やお便り、機関紙「プラティア通信」で定期的に報告し、また面会時や運営推進会議で意見交換の機会を設けている。</p>	<p>家族面会時には職員から話しかけ、利用者の状態や生活状況を説明し、家族とのコミュニケーションを積極的に図ることで、意見や要望を出しやすいように配慮している。また、定期的に「プラティア通信」で報告がなされる他、利用者の状態の変化などに応じて電話連絡も行い、家族が利用者の状態を把握し、意見や要望を出しやすいようにも取り組んでいる。出された意見や要望は、連絡ノートに記載され、全職員で情報を共有し、運営やサービスに活かしていくようにしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月に各ユニット毎の会議、またグループホーム合同の会議を開催し意見や要望を聞き入れる機会になっている。</p>	<p>毎月の会議で、職員が意見や提案を出しあっている。定期的に法人統括と管理者が面談を行う機会にも、職員の希望や要望・提案を聴取するようにしている。管理者は、職員から意見や提案などを表出しやすい雰囲気作りに配慮している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>評価される人事考課を実施し、モチベーションの向上に努めている。</p>	/	/
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の職員研修、階層別の研修を計画的に実施するように努めている。</p>	/	/

14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>交流会を通じて他の事業者との交流し、他の事業所主催の研修会にも参加している。</p>		
<p>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初回面接から本人、家族または利用している介護サービス事業者などから情報収集を十分に行い、スムーズな入所を心がけている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初回面接時に情報聞き取りに加え、書面での情報収集も家族にお願いしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族と十分な面接を行い、適切なサービスについて助言する。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>出来ることは行っていただくということを第一に考え、出来ないことを援助させていただくことで、共同での生活の作業を行っています。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時や、定期的に電話することにより入居者の方の状態をお伝えすることをさせていただき、家族で行える部分は行っていただいています。</p>		

20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>なじみの場所の情報収集もしっかりし、入居者の方からのご要望にあわせ外出援助を行っています。今年からは、個人レクを行い、馴染みのあるところへスタッフと1対1で行き、楽しんでいただいています。</p>	<p>知人・友人の面会があれば、気持ちよく面会できるように配慮し、関係が継続できるようにしている。利用開始後、地域で開催される行事への参加でできた馴染みの関係もあり、継続できるように支援している。今年度は個人レクを実施することに取り組み、日々利用者に関わる中で知り得た馴染みの場所に出向いたり、映画を見に出かけたりと、個別の外出支援で馴染みの関係継続に努めている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者が、孤立されている場合は、コミュニケーションをとることを心がけ、相手の立場に立ったケアを心がけています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他施設に移られても、年賀状などを送らせていただき様子をお伺いしている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いやり意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の会話の中からニーズを聞き出し、希望に添えるように努めている。</p>	<p>現在、はっきりと自らの思いや意向、希望を話される方が半数以上おられるため、言葉に出された思いや意向・希望にできる限り添えるように取り組んでいる。また、自ら思いや意向、希望が言い表せない利用者でも普段の関わりの中での表情や行動、家族からの情報で利用者の立場に立ち、思いや意向・希望を考えるようにしている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>入居前のアセスメントに引き続き、ケアマネ、家族、ソーシャルワーカーの協力の下、生活歴の把握に努めている。</p>		

25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>職員が入居者との会話や生活スタイルを観察した中から、個々に合わせたケアに努めている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>面会時やお便り、電話で本人のニーズ、家族の思いを導入したい事項に取り入れることを連絡することを連絡することで連携している。</p>	<p>利用開始前に管理者が必ず訪問し利用者・家族と面談を行い、フェースシートの書式に従って情報収集を行っている。得られた基本情報を全職員に情報提供し、約1カ月程度かけて利用者の状態を把握し、利用者・家族の希望・要望・職員の気づきを活かして介護サービス計画書を作成している。作成後は、介護サービス計画のニーズ・援助目標の項目に従って、担当職員と計画作成担当者と共にモニタリングを行っている。介護サービス計画の援助項目を優先順位に応じてモニタリングチェック表に明示し、全職員が計画を日々意識してケアの提供を行うように取り組んでいる。日々の利用者の生活の状況や身体状況などは、個別の介護日誌に記載されている。モニタリングの結果必要性があれば随時の見直しを行っているが、定期的には3～6カ月の見直しを行っている。</p>	<p>利用者がその人らしく暮らしづつけるために、利用者の些細な変化を見逃さず、必要な支援を計画に盛り込むために、介護日誌の記録の充実を図る取り組みが望ましい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者個々の介護日誌を記録し、心身の状態の変化や気づきの点を申し送り欄に記入する事で職員の情報の共有をしやすくして、モニタリングにも活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>生活歴、フェースシートを参考にし、個人個人にあった生活を提供させていただけるよう努力しています。</p>		

29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>自己決定を尊重し、スーパーへの買い物、近所の昔から行きつけの喫茶店への息抜きなど、地域の資源を利用させていただいています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームの協力医療機関はあるが、希望があれば入居前の主治医の継続は可能である。週1～2回の割合で往診を受け、緊急時は24時間対応できる体制を確保している。</p>	<p>協力医療機関の往診が週1回あるが、希望があれば希望のかかりつけ医への受診ができるように支援している。協力医療機関とは、いつでも連絡が取れる体制があり、利用者の状態の変化があればいつでも相談をすることができる。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週2回の訪問看護をいただいている。また、日常の体調の変化など気付いた事を看護師訪問時または電話でも報告している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院された際は週1回の割合で面会を行い、医療機関より情報を提供していただきフロアで共有している。退院後の対応も予め会議で協議し円滑に進めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>前年、一人看取りのケースがありました。逐一、家族様、看護師、医者との連携を取り、情報の共有化を徹底しました。</p>	<p>事業所の看取りに対する方針については、契約時から家族に説明を行っている。利用者の状態・段階に応じて家族と話し合いを行い、利用者・家族の意向を尊重したケアの提供が行えるように取り組んでいる。看取りについては、必要に応じて職員と勉強会を持ち、統一した方針で看取りを行っている。</p>	

34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急時の対応マニュアルを作成している。</p>		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防訓練を実施している。</p>	<p>年2回の訓練を昼夜想定で行っている。避難誘導訓練の後には、消火訓練も実施している。昨年の大震災の後に地域で災害対策について検討し、地域の避難の場所などになり地域との協力体制を築くことを検討している。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>言葉掛けや対応に関し、当社の基本理念の一つである「尊厳を保つ」を実践できるように認知症、接遇について社内研修で取り上げている。</p>	<p>具体的な事例を挙げ研修の中で話し合いが行われ、プライバシーや尊厳についての理解と浸透を図っている。基本理念にも利用者の尊厳について謳われており、理念の振り返りを行う際にも利用者の尊厳やプライバシーに触れて話が行われている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>対応する職員の行動、言葉遣いに気を配り理解しやすいように説明を行った上で、意思や希望が出やすい環境作りに努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人の生活のペースにあわせ、援助させていただいています。</p>		

39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>日常着は自己にて決定していただいています。その方、その方に合わせ、化粧、おしゃれの援助をさせていただきます。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材のカットや盛り付け、片付けを職員と一緒にやっている。木曜と日曜の夕食は自由作成日として入居者様のご要望に応じている。</p>	<p>普段は、食材の搬入を受け利用者と共に調理から後片付けまで行っている。木・日曜日の夕飯は、利用者の希望や好みを取り入れたメニューで、買い物から調理・後片付けまで利用者と共に行っている。個人や少人数で、寿司など外食に出かけて食べる楽しみを持っている。利用者の嚥下や咀嚼に応じた形態での食事提供を行っている。職員も利用者と共に同じテーブルを囲んで会話をしながら食べている。水分も1日1000ml以上摂るように勧め、水分チェック表で確認している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>傷病には留意して、食事の量、栄養面、水分摂取量を個々に考え援助させていただきます。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後口腔ケアの声掛けを行い、見守りや必要なら介助し口腔内の清潔保持に取り組んでいる。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日中はトイレでの排泄を基本ベースとして行っています。生活に近いレベルで対応させていただきます。</p>	<p>昼間はトイレでの排泄を基本とし支援を行っている。排泄チェック表で利用者の排泄状態やパターンを把握し、利用者一人ひとりに応じた排泄用品の使用や声かけや誘導などを行っている。便秘の場合は、予め医師の処方を受け、指示に従って薬を使用し便秘にならないようにしている。</p>	

44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>日常の食事で食物繊維、水分摂取、乳製品等の食物で自然な形で排泄を促す取り組みをしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>特に決まった入浴時間、曜日は設定せず、希望があれば応じる形を取っている。</p>	<p>夜間の入浴希望者もあり、利用者の希望や状態に合わせて入浴してもらえるように支援している。希望があれば同性介助を行うようにしている。入浴拒否をされる利用者でも気持ちよく入浴してもらえるように日や時間、声かけ・誘導などを工夫し対応している。利用者のADLの低下により、職員一人介助での入浴が困難な利用者には、安全性を考え曜日や時間を決めることもある。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個人個人の生活のスタイルにあわせ、ゆっくり起きていたい方はゆっくり過ごしていただき、早めに休みたい方は、早めに休んでいただいています。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>使用している薬の内容の把握はもちろん、変更に関しても介護日誌の申し送り欄で職員全体が把握できるようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活歴や趣向をベースにした生活を送っていただけるよう努めています。当ホームでは喫煙、飲酒も認めています。</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>個々の希望、残存機能にあわせ、外出は積極的に行っている。家族との外出も希望にあわせ、積極的に行っています。</p>	<p>近隣の散歩は、日常的に行われており、フロア毎に出かけたり、利用者の希望に応じて個別に出かけることができるようにも支援している。個別レクとして計画的に買い物や観光地などに個別に外に出かける機会もある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理が出来る方は、自己管理にて嗜好品を買いに行かれています。自己管理が出来ない方は、事務所で小口現金を預かり、希望にそって使わせていただいている。</p>	/	/
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の希望に合わせて、かけていただいています。ご本人で携帯電話を持っておられる方もおられます。</p>	/	/
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は常に清潔に保ち、ベランダに花や植木を置き、リビングには季節感を感じる写真などを展示している。</p>	<p>落ち着いた木調のフロアは明るく、ゆったりとくつろげる空間が提供されている。季節感のある写真や装飾品が飾られた室内は、テーブルの他にソファや椅子を配置し、思い思いの場所で寛げるように配慮されている。対面式のキッチンから食事作りの匂いが漂い家庭的な雰囲気が感じられる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビング以外にも長椅子を設置し、気の合う方同士や一人でも過ごせるスペースを確保している。</p>	/	/

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	本人が自宅で使用し ていた家具類、テレ ビ、仏壇等を持ち込ん でいただき、心地の良 い住環境作りに努め ている。	利用開始時に本人や家族 と相談し、使い慣れた家 具・道具を持ち込み、写真 や装飾品を飾り、その人ら しい個性の感じられる居室 作りに取り組んでいる。で きるところはご利用者と一 緒に掃除し、清潔で快適な 環境整備に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつできるだ け自立した生活が送れるように工夫してい る	ホーム内には手すりを 設置し、バリアフリー になっている。		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしてい る	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない